

建築学科エリアマップ

「国大北」バス停のすぐそば、中央広場のまわりに、建築学棟をはじめとした建築学科の関連施設が集中しています。各種の実験施設や工房、建築図書室など、専門教育のために必要な設備が整っています。



01 | 建築学棟、建築図書室

建築学棟には製図室や研究室があり、壁面緑化、膜構造屋根、開放的なフロアなど、様々な試みがなされています。



02 | 構造実験棟

実際の柱や梁の耐震性を測る加力装置など、国内有数規模の実験設備を備え、最先端の教育が行われています。



03 | IUI / パワープラントホール

Y-GSAの拠点には、広々としたホールが設けられ、レクチャー、シンポジウム、発表会などに活用されています。



04 | ものづくり工房・建築アトリエ

リニューアルした建築アトリエでは1年生「絵画・彫塑・基礎デザインI・II」の講義・実習が行われます。



中央図書館（全学施設）

約70万冊を蔵書。メディアホールやカフェ、ラウンジも併設し、多目的に利用することができます。



中央広場（全学施設）

キャンパスの個性である緑豊かな環境をより身近に感じ、誰でも気兼ねなく滞在できるパブリックスペースです。

写真=Ippei Takahashi

写真=01 新建築社写真部 / 02, 03 ゆかい / 04 Kai Nakamura

入試情報

横浜国立大学都市科学部は建築学科を含む4つの学科により構成されます。

建築学科の入試には、一般入試、総合型選抜、帰国生徒選抜、編入学試験、Y-GEPがあります。

出願資格、出願方法、選抜方法、募集人員、試験日程等については、大学のホームページ等で必ず最新の学生募集要項を確認してください。

一般入試

前期日程、後期日程の両試験日程でそれぞれ入学者を募集し選抜試験を実施します。選抜は大学入学共通テストの成績と本学が実施する個別学力検査を総合して行います。

編入学試験（高等専門学校編入学）

個別学力検査（専門科目）と面接試験により実施します。

総合型選抜・帰国生徒選抜

第一次選抜、第二次選抜の二段階選抜により実施します。第一次選抜は書類審査および実技試験です。第二次選抜は第一次選抜合格者に対して面接試験を課します。なお、大学入学共通テストは課しません。

Y-GEP（私費留学生入試）

日本国籍を有しない外国人留学生を対象とした試験です。

建築学教室

〒240-8501
横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5
横浜国立大学都市科学部建築学科

Y-GSAオフィス

〒240-8501
横浜市保土ヶ谷区常盤台79 エネルギーセンター
横浜国立大学大学院／建築都市スクール“Y-GSA”

横浜国立大学 都市科学部 建築学科

Department of Architecture and Building Science
College of Urban Sciences
Yokohama National University

www.ynu-arc.jp



横浜国立大学建築学科のヴィジョン

横浜国立大学の建築教育は、前身である横浜高等工業学校に建築学科が創設されたとき（1925年）に始まり、日本で初めてそして唯一の徹底した建築家教育が実践されたことで有名です。学科創設から四半世紀にわたり建築教育に携わった中村順平（フランス建築士D.P.L.Gの称号を持つ、芸術院会員、文化功労者）によるデザイン教育の精神は、今日まで連綿と継承されています。

建築という学問は、美学や哲学という思想、歴史や社会学、心理学という人間の行動に関する学問領域とも密接な関係があり、人間の身体と関係する空間のデザイン、都市や環境といった広がりのある空間のマネジメント、音や熱や光といった現象のサイエンス、物質を地球上に建ちあげるというエンジニアリングにいたるまで、広範な学問領域をもっています。つまり、建築とは、私たちが生きるこの世界、そして文化そのものを対象とする学問だといえるのです。

横浜国立大学建築学科は、こうした広範な学問領域に関心を持ち、既存の価値体系にとらわれない自由な発想と豊かな想像力によって建築や都市をつくることに関心のある人を求めています。

横浜国立大学建築学教室

建築とは

建築を考えるということは、人間の生を考えることだ。人間は決して裸では生きず、環境と共に生き、時空間と共に生きる。住まいや建築、街、故郷といった、環境をつくりながら生きる。また人間は、物語を作りながら生きる。建築・都市とは、人間が作る数々の物語の中でも、最大の物語の一つだといえる。建築は、人間の生きることをめぐる想像力が形になったものだ。

また建築は、確かに人間的で、独創的なものだけれど、人間を超えるところがある。例えばそれは、一人でつくるものではない。建築は、建築主、施工者、設計者、様々な人間が知恵と情熱を集結させて、作り上げるものだ。一人ひとりが自分の「思い」をもって、個人の独創がぶつかり合って、建築は出来上がる。そうやって出来た建築は、人間の価値観を表すが、同時にそれは人間の何倍もの長い生命を持って、地上に残り続ける。建築には人間を超越する大きさがあり、その大きさゆえに人間はそれを愛する。

西沢立衛

建築家・都市科学部教授

教育の4つの領域

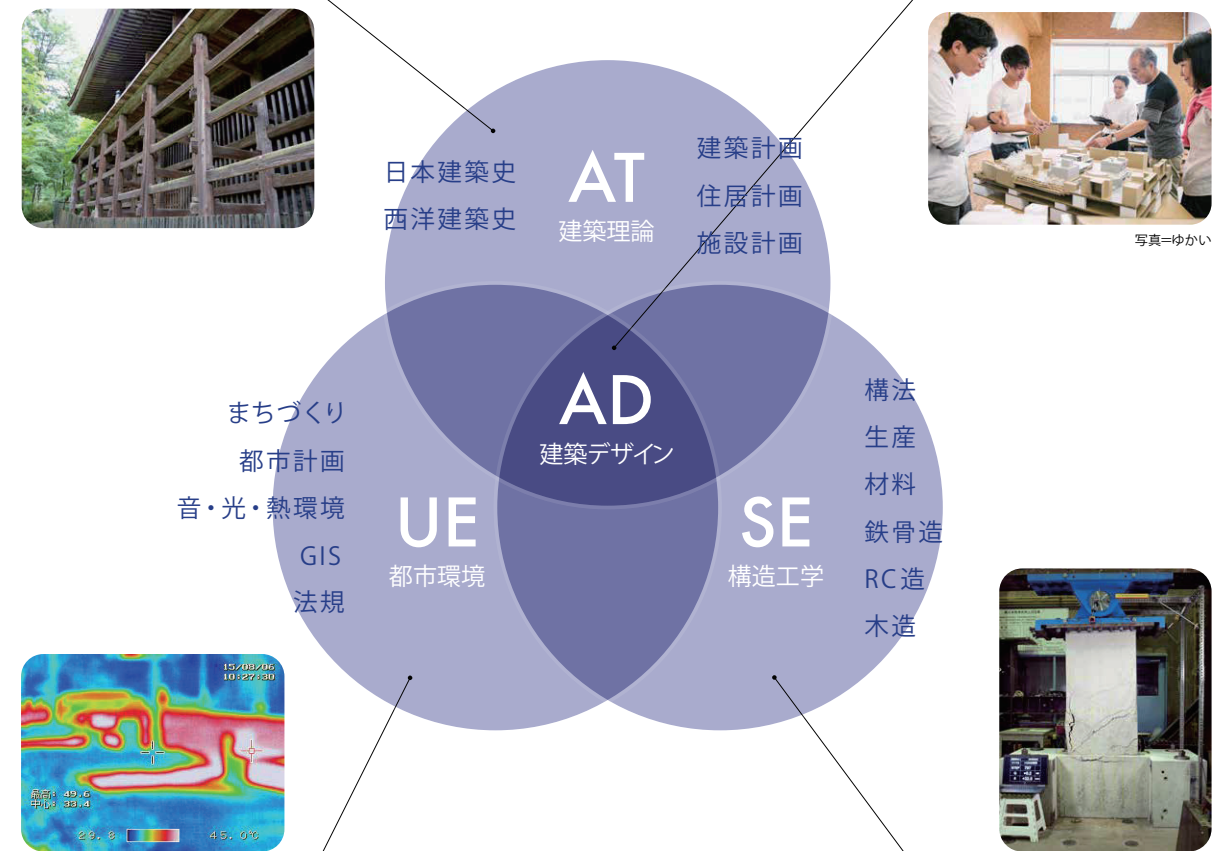
横浜国立大学建築学科では多様な学問領域をAT（建築理論）、UE（都市環境）、SE（構造工学）、AD（建築デザイン）という緩やかに連携する4つの分野によってバランスよくカバーしています。建築学科における教育は4つの分野を横断しながら展開していきます。このなかで建築デザイン教育（AD教育）は他の3つの分野（AT・UE・SE教育）にまたがる共通領域として位置づけられ、建築学を習得する幹となっています。

建築理論 Architectural Theory

建築理論分野では、建築の歴史性や芸術性、人間生活を豊かにする建築の計画手法などを扱っています。現代社会は極めて多様で複雑な社会であり、ともすれば本質的に重要な価値を見失いがちです。次世代に受け継ぐべき価値をしっかりと提示し、建築や都市空間の基本的概念を支える思想や理論を構築していきます。

建築デザイン Architectural Design

建築デザイン分野では、建築・都市のデザインを扱っています。建築をデザインするということは、工学的知識から美学・哲学などの人文社会学の知識までが要求される包括的なものです。未だ存在しない空間や建築を都市の中に構想することは、過去からつながる歴史に敬意を払い、現在の文化や社会を理解し、未来に対して責任を持つことです。



都市環境 Urban Environment

都市環境分野では、ヒト・エネルギー・環境要素（音・光・熱・空気・水等）・生態系の複合的なつながりと建築や都市空間との関係を捉え、この関係の発展や創造を扱っています。人間生活と地球環境との均衡が崩れつつある現代において、持続可能な建築と都市のあり方を地球規模で考え実践に結びつけていきます。

構造工学 Structural Engineering

構造工学分野では、建物を安全にすることを通じて人々の生命と財産を守るために、建物の材料・構造・構法を扱っています。建物はその構造種別によって、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造などに分けられます。また、特殊な構造形式として競技場などの大空間構造物が挙げられます。多様化する建築デザインの要請に対して、高度な構造技術で応えていきます。